

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00913

研究課題名(和文)「産業文学」の再定義とその国際共同研究 産業化と脱産業化のグローバルな経験

研究課題名(英文) International Collaborative Research for Redefining "Industrial Literature":  
Global Experiences of Industrialization and Post-Industrialization

研究代表者

川端 康雄 (KAWABATA, Yasuo)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：80214683

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 20,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は 国民国家の枠組みに限定されない新しい「産業文学」観の形成、産業化から脱産業化への経験を捉えるための学際的理論の構築、という2点を重要な目的とした。産業化と脱産業化の双方を含む近代史全体の中に産業文学を位置づけるためには、国民国家内での混淆性の認識と、トランスナショナルまたはグローバルな視点が不可欠である。ゆえに本研究では狭義の階級や国家的枠組みに囚われない新しい「産業文学」像の構築を目指し、従来等閑視されていた作品も含めて研究を進めた。モダニズム研究、ポストコロニアリズム、ジェンダー論など、学際的なアプローチによって本研究は脱産業化以降とされる現代への理論的な介入を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市的なモダニズムを中心としてきた英米文学研究で従来比較的顧みられずにいた「産業文学」に着目し、それをグローバルに進化した産業化と脱産業化のプロセスの文脈に位置づけた。さらに労働者階級文学の視点とポストコロニアル研究およびジェンダー研究の成果との統合を図った。そうした試みを国際的な共同研究のかたちで進めた。本研究が目指すような「産業文学」の新たな全体像を浮かびあがせることによって、従来の文学史の書き換えを示唆した。私たちの生きる現在がいかなる近代の歴史と系譜のもとにあるのか、という問題意識を手放さずに本研究を進めてゆき、現代文化を考える際の重要なパースペクティブを提示することができた。

研究成果の概要(英文)：Our study had two objectives: (1) to formulate a new concept of "Industrial Literature" which is not limited to the framework of nation-state, and (2) to construct an interdisciplinary theory to capture the experiences of people in the face of the transition from industrialization to de-industrialization. In order to contextualize "Industrial Literature" in modern history as a whole, including both industrialization and de-industrialization, it is necessary to have a transnational or global perspective, assuming the mixed nature of the nation-state. Aiming, therefore, to redefine "Industrial Literature" not confined to the narrow framework of class or nation, our study covered the works which had been underestimated or disregarded in the previous studies. In so doing, it made a theoretical intervention in relevant matters through interdisciplinary approaches, drawing on, among others, modernism, postcolonial and gender studies.

研究分野：人文学

キーワード：産業文学 ポスト産業社会 グローバリズム フェミニズム ソーシャリズム レイモンド・ウィリアムズ ウェールズ英語文学 精神分析

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする文学ジャンルは、従来は「労働者階級文学」や「プロレタリア文学」と呼称されてきた。いずれも、19世紀以来の産業化が進む近代世界にあって形成された労働者階級の生活を描く文学ジャンルのことであり、形式としては19世紀的なリアリズムを基調とする。しかし、本研究においては、これらの呼称は不十分であると考え、レイモンド・ウィリアムズ (Raymond Williams, 1922-88) がその著書 *Culture and Society* (1958) で採用した産業小説 (industrial novels) という概念を拡張し、「産業文学」という呼称を採用した。

本研究独特の「産業文学」の概念は、これまでイギリスやアメリカ、さらにはそのなかの北イングランドやウェールズ、南部やアパラチア地方といった地域を単位に研究され、またジェンダーの面からは、もっぱら男性の労働者に限定され、さらに文学形式においてはリアリズムに限定されてきた労働者階級文学を、より広い視野で捉えることを目指すものであった。「産業文学」は、産業化し、さらには脱産業化しつつある近代を全体的に捉えるための概念であり、地理的には田舎と都会、第三世界と第一世界との間の相互作用を、ジェンダーの面からは女性の労働を、文学形式の面からはリアリズム小説だけではなく、モダニズム的な文学やさらには文学以外の文化テクスト、批評テクストまでも包含する。したがって「産業文学」研究はこれまでのナショナルな枠組みで行われていた労働者階級文学研究をトランスナショナルまたはグローバルに展開することを要請するものであると捉えた。

本研究はこれまでに受けた科学研究費のうち特に基盤研究 B (一般)「構造主義の残滓としての英国批評の国際的再検討ーラスキンからウィリアムズまで」(2010~2012 年度、課題番号 22320060) と、基盤研究 A (一般)「カルチュラル・スタディーズの基礎理論構築ー残滓としての英国批評を活用して」(2013~2016 年度、課題番号 25244014) の成果を応用するものであった。これらの研究では、英国の文化批評の系譜が、同国における産業化の経験とそれへの反応と不可分であることを明らかにした。本研究ではこの成果をさらに拡張した。また、これと関連して、本研究の研究分担者の全員は、レイモンド・ウィリアムズ研究会のメンバーとして、これまでも集団的な研究を続けてきた。その成果はすでに複数回にわたる国際シンポジウム (Raymond Williams in Transit II (2010 年 9 月 25 日)、Raymond Williams in Transit III (2012 年 11 月 2 日)、Beyond the Border Country (2016 年 3 月 11 日) など) と、研究会の機関誌『レイモンド・ウィリアムズ研究』(1~6 号および英文特別号 3 号) というかたちで発表されている。また、上記科学研究費プロジェクトおよびレイモンド・ウィリアムズ研究会の活動を通じて、「研究計画・方法」において後述するイギリス、アメリカ、ニュージーランドの研究者とのネットワークが確立しており、本研究はその国際的ネットワークを活用して研究を進捗させ、成果を発表することとした。

### 2. 研究の目的

本研究は、従来とは異なった意味で「産業文学」と呼ぶ、英語で書かれた文学や文化および批評を研究した。その際に、以下の二点を重要な目的とした。

#### ① 国民国家の枠組みに限定されない新しい「産業文学」観の形成

これまで産業文学の研究は「労働者階級文学」としてであれ「プロレタリア文学」としてであれ、国民国家の枠組みを基本として行われてきた。だが産業化と脱産業化の双方を含んだ産業近代の歴史の全体を考え、そのなかに産業文学を位置づけるためには、国民国家内での混濁性と同様、トランスナショナルまたはグローバルな視点が不可欠である。したがって本研究では狭義の階級や国家的枠組みに囚われない新しい「産業文学」像の構築を目指し、これまで顧みられてこなかった作品も含めて研究を進めた。

#### ② 産業化から脱産業化への経験の全体を捉えるための学際的理論の構築

本研究は、(脱)産業化する近代の全体にかかわるものとして産業文学を考えた。例えば、これまで都市経験に重点を置いてきたモダニズム的な文学研究は、その後背地としての「田舎」の経験の対置によって部分的なものとなるだろうし、第一世界の経験と第三世界の経験もまた、その両者を見てこそ、Raymond Williams が「生のあり方の全体 a whole way of life」と呼んだ近代の経験全体を捉えうるだろう。さらに、生きられた経験を扱う上ではジェンダー論的観点も不可欠となる。こういった学際的なアプローチを採ることで、本研究は脱産業化以降とされる現代への理論的な介入が可能となる。

### 3. 研究の方法

本研究はトランスナショナルな産業文学を研究し、上記のとおり近代の全体的な経験を問題とした。しかし、当然のことながら一足飛びにそのような全体を取り扱うことは不可能であるため、本研究は以下のような個別の論点を研究し、それらを総合することを目指した。

### ① 個別の地域・時代研究

本研究で対象となる地域と時代は（1）19世紀以降の南ウェールズ、（2）19世紀以降のイングランド、（3）20世紀アメリカ・アパラチア地域に大別できる。さらには、（4）19世紀以降の日本も研究の視野に入れる。これらはいずれも、炭坑地域を中心とする、近代化を陰で支えた地域ということになるが、本研究で明らかにしたのは、これらの個別の地域の文学と文化だけではなく、それらの間の直接・間接の関係である。また、本研究は産業化だけではなく、これらの地域の脱産業化（具体的には、20世紀に進んだ炭坑の閉鎖などとそれをめぐる社会の変化）のプロセスとその文化との関係も考察の対象とした。

### ② ポストコロニアル研究とエコクリティシズム

上記のような各地域の関係を考えるにあたって、今日にまでいたるポストコロニアル研究とそこから派生するエコクリティシズム（環境主義批評）の成果の再検討が不可欠である。都会／田舎、第一世界／第三世界がどのようなシステムをなして近代世界を形作り、それが近代化への批判的応答も含めて文学・文化にいかんして記録されてきたのかを考えた。加えて本研究は、ポストコロニアル研究や環境主義批評に産業文学の研究によって新たな光を当てることにも力点を置いた。とりわけ、南ウェールズの産業文学や後述するジェンダー研究の蓄積によって可能になってきた、個々の日常に密着した労働運動の経験の表象という視座は、ポストコロニアル研究や環境主義批評の現代的意義をあらためて問い直すことを可能にした。

### ③ ジェンダー研究

男性労働者に偏りがちであった従来の研究を是正するため、本研究ではジェンダー理論を採用しつつ、女性と女性労働を産業文学研究の対象として取り入れた。これは女性作家の掘り起こしという側面と、より理論的にジェンダーを産業文学研究の本体に組み込むという側面がある。もちろん、ここにはジェンダー論の観点からマルクス主義を含む労働論や運動論を再検討するという作業も含まれた。

### ④ マルクス主義理論

上述したアプローチに加えて、本研究はリアリズム的な作品を規範とするような従来のマルクス主義または社会主義系の文学理論を批判的に捉えなおした。その際に重要になるのはレイモンド・ウィリアムズの一連の著作を歴史的な文脈に据えたいうで再検討するという作業である。これにより、本研究はウィリアムズの著作の今日的意義をも明らかにすることを図った。

## 4. 研究成果

初年度の2017年度は2度の国際会議の開催を中心として行った。2017年9月1日、2日の両日にわたって、ニュージーランドのVictoria University of Wellingtonにて [Selective Tradition in the Pacific: A Conference on Class, Writing, and Proletarian Fiction](#) と題する二日間の国際会議を開催した。これは河野（研究分担者）とDr Dougal McNeill（研究協力者）が組織し、川端（研究代表者）、中井、遠藤、河野、西、越智（以上、研究分担者）が参加、論文発表を行った。さらに研究協力者として山田雄三、尾崎文太、佐喜真彩、嶽本新奈、田尻歩、廣瀬絵美、星野真志が参加し、論文を発表した。

2018年2月には、ドキュメンタリー映画監督のTom Hansell氏とスウォンジー大学のDaniel G. Williams、Simon Brooks 両教授を招聘し、[After Coal: Symposia on Post-industrial Culture and Society in Wales, Appalachia and Japan](#) と題するシンポジウムを大阪（2月18日）と東京（2月23日）にて開催した。これはHansell監督のドキュメンタリー作品 *After Coal* を端緒にして議論を展開した会議であり、ウェールズとアパラチアのみならず、日本の炭坑地域の文化の専門家である古谷眞介氏（大阪産業大学准教授）および中澤秀雄（中央大学教授）をそれぞれ大阪と東京のセッションで招聘し、比較研究の幅を広げることができた。

上記の2つの国際会議に加えて、本科学研究の代表者および分担研究者の全員が関わっているレイモンド・ウィリアムズ研究会については、本年度は3度開催した。

研究2年目に当たる2018年度の調査・研究は、初年度に実施した2度の国際会議および個々の調査を踏まえ、レイモンド・ウィリアムズ研究会での発表および討議と並行して、各自が分担した考察対象に即して調査を行った。

レイモンド・ウィリアムズ研究会では2018年6月3日にDr Sean Matthews（ノッティンガム大学）を招いてセミナー（Raymond Williams and Decolonisation）を開催した（於日本女子大学目白キャンパス）。

同12月16日にはDr Dougal McNeill（Victoria University of Wellington）を招き、近刊の編著 [British Literature in Transition, 1920-1940](#)（Cambridge UP, 2018）について討論を行った

(於中央大学駿河台記念館)。

また、2019年2月22日に斎藤幸平大阪市立大学准教授(当時)のマルクスとエコロジー批評をめぐる単著について大阪・梅田にて合評会(「エコロジーとソーシャリズム—Kohei Saito, [Karl Marx's Ecosocialism: Capital, Nature, and the Unfinished Critique of Political Economy](#)を読む)を開催、2018年度のドイッチャー賞を受賞した斎藤氏の著作をめぐって活発で有意義な討議が行われた。

さらに2019年3月5日には「[オーウェル『一九八四年』とディストピアのリアル—刊行70周年記念シンポジウム](#)」(主催:日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画)を共催した(於日本女子大学目白キャンパス)。

概ね年に一号刊行している研究誌『レイモンド・ウィリアムズ研究』については、平常号(第8号)を2019年3月に発行した。そのなかに上記2018年12月16日開催の研究会の発表内容を掲載した。

川端は、研究代表者として全体を統括しながら、ジョン・ラスキンから、ウィリアム・モリス、ジョージ・オーウェルへと続く英国における批判的産業文学の系譜をロンドンでの資料調査をもとに考察した。

中井は、1970年代から80年代イギリスで行われた「家事労働に賃金を」および「女性のストライキ」キャンペーンについて、2017年度末に収集した資料をもとに理論的に考察した。

遠藤は、ロンドンでの精神分析関連の資料調査と、精神分析が近代的な諸言説に介入する、その理論的かつ政治的な可能性についての研究成果を、口頭発表、論文で公表した。

河野は、これまでの研究結果を日本英文学会大会シンポジウムで発表した。また、北ウェールズにおける環境保護運動、反原発運動の現状の調査と研究者交流を行った。

大貫は、歴史家で小説家のダイ・スマイスによるトニーバンディ暴動論を継承するかたちで、産業労働者階級の経験がいかにしてコミュニティの想像力と関係しうるか、考察を進めた。

西は、脱産業化の経験として、戦後日本炭鉱地域、とりわけ北九州の筑豊炭鉱地帯におけるサークル運動について、森崎和江および谷川雁の著作と活動に重点を置いて調査及び著述を行った。また、1980年代の英国におけるソーシャリズムとエコロジーについても、ロンドンで調査を行った。

越智は、米国アパラチア地域の表象と産業文学について、アメリカ議会図書館でのドス・パソス関連資料等の調査を踏まえて考察し、石炭産業と文学の関連についてさらに掘り下げた。

研究3年目に当たる2019年度は、2018年度の研究会と個々の調査を踏まえて、「産業文学」の批評的読解を継続しつつ、研究会および国際会議を含む関連学会への出席によって調査・研究をさらに進めていった。9月には連合王国ウェールズから Dr Daniel William (Swansea University) と Dr Steve Thompson (Aberystwyth University) を招聘し、「International Symposia: The Cultures of Coal」(国際シンポジウム「石炭の文化」)と題する国際会議を以下の2回に分けて開催した。「1st Session: Diversifying the Cultures of Coal」(「石炭の文化とその多様性」)、於直方歳時館(福岡県直方市、9月23日)。「2nd Session: Disabilities and the Cultures of Coal」, 於専修大学神田キャンパス(東京都千代田区、9月28日)。第1回セッションでは西が全体の司会を務め、上記招聘者2人に加えて吉原ゆかり筑波大学教授、また越智が発表を行った。第2回セッションでは招聘者2人の発表のあと河野がディスカッサントとしてコメントを行い、それをもとに全体で討議を行った。

川端は、全体を統括しながら、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス、ジョージ・オーウェルを中心として、批判的産業文学の系譜の調査を継続した。ヴェネツィアでのジョン・ラスキンの国際会議([A Great Community: John Ruskin's Europe](#), 2019年10月7~9日)に出席し、研究発表を行った。

中井は、1970~80年代のイギリスのマルクス主義フェミニズム運動について資料収集と分析作業を行った。

遠藤は、精神分析が近代的な諸言説に介入する、その理論的かつ政治的な可能性についての研究成果を、口頭発表、論文で公表した。

河野は、20世紀ウェールズ文学研究およびポスト産業社会の文化についての理論的研究を行った。

なお、中井、遠藤、河野の3名はマンチェスターでのレイモンド・ウィリアムズの国際会議(Raymond Williams Society 1st Annual Conference 'Cultural Production and the Redundancy of Work: Precarity, Automation, and Critique' 2019年4月27日)に出席した。

大貫は、ウェールズ英語文学とソーシャリズム言説の関連について調査を進めた。

西は、炭鉱産業の盛衰における労働者らの経験を産業化および脱産業化の経験とした位置づけ、その語りの在り方を検討するとともに、これら経験を国際的な資本の運動との連関において論理的に位置付ける作業を行った。上記の9月23日、25日開催の国際会議「Cultures of Coal」では企画運営面で中心的役割を担った。

越智は、アパラチアの炭鉱地帯の表象について、いかに白人男性のみが労働者として表象され

ていたのか。Social Security 法が成立する過程の議論を背景に考察すべく調査を行った。

代表者および分担者の全員が関わっている研究誌『レイモンド・ウィリアムズ研究』については、第9号を2020年3月に刊行した。分担者大貫の論文に加えて、特集として、2018年3月に開催したオーウェル『一九八四年』をめぐるシンポジウムの発表および討議を採録した。

2020年度の調査・研究は、当初予定では、過去3年の研究会、国際会議、また個々の調査を踏まえて、「産業文学」の批評的読解を継続しつつ、研究会および国際会議の開催（また国際会議への出席）によって推進するというものであったが、中心として位置づけていた英国ウェールズでの国際会議が新型コロナウイルス感染症の流行により結局中止とせざるをえず、部分的にはオンラインでの国際会議で代替することとなった。さらに各人が個別の作業を進めることによって研究をまとめていった。

川端は、全体を統括しながら、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス、ジョージ・オーウェルを中心として、批判的産業文学の系譜の調査を行った。

遠藤は、産業資本主義のイデオロギーの根幹にある近代の実証主義が抑圧する「否定性」を精神分析および情動理論を援用して英国モダニズムという文脈において論じつつそのマルクス主義的可能性を追求した。

中井は、1970～80年代イギリスのマルクス主義フェミニズム運動「家事労働に賃金を」について資料収集と分析作業を行った。

河野は、20世紀ウェールズの文学研究およびポスト産業社会の文化についての理論的研究を行った。

大貫は、ソーシャリズムあるいは社会的なもの、ウェールズ英語文学の関係性について、「複数性」「運動性」「ドグマ性」といった観点から、相互の非対称性について調査・分析を進めた。

西は、戦後産炭地域の経験の一例として筑豊を中心に活躍した森崎和江の思想を研究した。さらに労働運動との連関として、英語圏における環境言説の分析も行った。

越智は、アパラチア地域の産業文学およびポスト産業文学の作品に備わる批判的な介入の表象を分析した。

リモートによる国際会議としては、イギリス、ウェールズの Swansea University にある「ウェールズ文学・言語研究センター (the Centre for Research into the Literature and Language of Wales at Swansea University) の主催によってレイモンド・ウィリアムズ生誕百年記念のイベント “Celebrating 100 Years of Raymond Williams: The Centenary Symposia” のひとつとして2021年10月22日に開かれた “Symposium 3: Raymond Williams in Japan” において、大貫、中井、越智、河野が発表を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Nakai Asako	4. 巻 -
2. 論文標題 Materialism, autonomy, intersectionality: revisiting Virginia Woolf through the Wages for Housework perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Feminist Theory	6. 最初と最後の頁 1.4647E+14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/14647001211062720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 5
2. 論文標題 壽岳文章の抵抗 『滴る雫』の抵抗精神	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 向日庵	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 4
2. 論文標題 壽岳文章とウィリアム・モリス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 向日庵	6. 最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 46
2. 論文標題 「志業」の系譜 柳宗悦、壽岳文章、小野二郎	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 紫明	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 20
2. 論文標題 『生活の藝術化』から『英國近世唯美主義の研究』へ 本間久雄のウィリアム・モリス研究を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オスカー・ワイルド研究	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 3(45)
2. 論文標題 輻輳的な「わたし」から 初期詩作品と批評のことばをつなぐために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 詩と思想 [2次]	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 134
2. 論文標題 「崩壊」を見つめて 「エネルギー革命」期の筑豊と森崎和江のことばを読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界文学	6. 最初と最後の頁 20-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貴 隆史	4. 巻 10
2. 論文標題 文化のソシオロジーと感情構造記述は同時に実践可能か? レイモンド・ウィリアムズによる C・ブロン デ記述をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 5-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫 隆史	4. 巻 8
2. 論文標題 「しかし歴史にはいくつもの流れがあり」 レイモンド・ウィリアムズ『ディケンズからロレンスまでの イングランド小説』におけるジェイン・オースティン論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北ロマン主義研究	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ENDO Fuhito	4. 巻 24
2. 論文標題 Something Ontological beyond the Psychological: De Man and Karatani Reconsidered	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Seikei Review of English Studies	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ENDO Fuhito	4. 巻 19
2. 論文標題 Modernism as Anti-Modernity: Oscar Wilde's Negative Materialism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オスカー・ワイルド研究	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 13
2. 論文標題 エコクリティシズムとポストコロニアリズムの「合流」再考 ポストコロニアル・エコクリティシズムの 意図と方法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エコクリティシズム・レビュー	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 川端康雄	4. 巻 55
2. 論文標題 「ファリンドン通りのアリストパネス」 ウィリアム・モリスの社会主義演劇『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』覚書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本女子大学英米文学研究	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井亜佐子	4. 巻 14
2. 論文標題 小説という名の箱舟のなかで 『ロビンソン・クルーソー』と『フォー』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語社会 (一橋大学)	6. 最初と最後の頁 129-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫 隆史	4. 巻 9
2. 論文標題 ふつうの人びと、突出する人びと 南ウェールズの書き手たちと「裏切り」の問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ENDO Fuhito	4. 巻 Nov. 2019
2. 論文標題 Queering the Death Drive: Counter-Transferential Language in Joseph Conrad	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Knots: Post-Lacanian Psychoanalysis, Literature, and Film ed. Jaen-Michel Rabate, Routledge	6. 最初と最後の頁 88-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 47巻3号
2. 論文標題 「定住者」の視線を超えるために 移動者たちの生にむけて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 67-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫 隆史	4. 巻 8
2. 論文標題 (研究ノート) 移動と定住のマテリアリズム トニーバンディからブラックマウンテンズへ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 51-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KONO Shintaro	4. 巻 8
2. 論文標題 Welsh Literature in Transition	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 88-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKAI Asako	4. 巻 8
2. 論文標題 Fiction Is History - but Why Fiction? A Response to British Literature in Transition, 1920-1940	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レイモンド・ウィリアムズ研究	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 2019. 4.
2. 論文標題 モリス主義者の遺したものは 小野二郎の仕事(と未完のプロジェクト)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ある編集者のユートピア 小野二郎:ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』(世田谷美術館)	6. 最初と最後の頁 8-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端 康雄	4. 巻 303
2. 論文標題 詩人モリス出世作の全訳 ウィリアム・モリス著、森松健介訳『地上の楽園 春から夏へ』『地上の楽園 秋から冬へ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央評論	6. 最初と最後の頁 236 - 241
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 3巻374号
2. 論文標題 森崎和江のことば 運動とエロスのゆくえ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩と思想	6. 最初と最後の頁 118-124
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西 亮太	4. 巻 3巻375号
2. 論文標題 森崎和江のことば 運動とエロスのゆくえ 後編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩と思想	6. 最初と最後の頁 118-124
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井 亜佐子	4. 巻 1
2. 論文標題 革命と日常 C・L・R・ジェームズにおける「ヴ ドゥー的」大衆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 多様体	6. 最初と最後の頁 115-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 不比人	4. 巻 28
2. 論文標題 情動、モダニティ、不気味なもの D・H・ロレンスの反心理学をめぐる覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 D・H・ロレンス研究	6. 最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 OCHI Hiromi	4. 巻 3
2. 論文標題 Harlan Miners Speak: The Way Their Voices Were Heard	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Correspondence: Hitotsubashi Journal of Arts and literature	6. 最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井 亜佐子	4. 巻 42
2. 論文標題 女の日常の詩学 労働、もの、ことば(招待論文)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤 不比人	4. 巻 34
2. 論文標題 アウラと情動、あるいは残滓的なものの唯物論をめぐる断章	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ヴァージニア・ウルフ研究	6. 最初と最後の頁 86-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 23件)

1. 発表者名 NAKAI Asako
2. 発表標題 Intention and Agency in the Television Age: Raymond Williams 's Television (1974) and Edward Said 's Beginnings (1975)
3. 学会等名 The Centenary Symposia: Raymond Williams in an Age of Globalisation - Symposium 3: Raymond Williams in Japan (Online, 22 Oct. 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ONUKI Takashi
2. 発表標題 Forms and Relations in Raymond Williams: A Case of Japanese Manga
3. 学会等名 The Centenary Symposia: Raymond Williams in an Age of Globalisation - Symposium 3: Raymond Williams in Japan (Online, 22 Oct. 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OCHI Hiromi
2. 発表標題 1955: Faulkner at Nagano as a Media Event
3. 学会等名 The Centenary Symposia: Raymond Williams in an Age of Globalisation - Symposium 3: Raymond Williams in Japan (Online, 22 Oct. 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 オスカー・ワイルドとアーツ・アンド・クラフツ運動
3. 学会等名 シンポジウム「現代を生きる19世紀イギリスの作家たち」19世紀イギリス文学合同研究会準備大会（2021年9月18日、リモート開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤 不比人
2. 発表標題 交錯するフロイトとクライン モダニズム的言語における女性性をめぐって
3. 学会等名 日本英文学会第93回大会（2021年5月23日、リモート開催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西 亮太
2. 発表標題 崩壊を見つめて 「エネルギー革命」期の筑豊と森崎和江のことは
3. 学会等名 世界文学会2021年度連続研究会（2021年4月24日、リモート開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 唯美主義運動の「大義」 ウォルター・ハミルトン著『英国の唯美主義運動（1882年）をめぐって
3. 学会等名 シンポジウム「芸術のための芸術／世界のための芸術 開かれた唯美主義の形態」日本ヴィクトリア朝文化研究学会第20回大会（2020年11月18日、リモート開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西 亮太
2. 発表標題 「公害」から「環境」、そして「エコ」へ
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム 第9回オンライン大会 2021 ( 2021年10月16日 ) ( 国際学会 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤 不比人
2. 発表標題 情動ともの モダニズム芸術をめぐる
3. 学会等名 表象文化論学会オンライン研究フォーラム2020 ( 2020年8月9日 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 モリス『テーブルは覆る、ナプキンは目覚める』をめぐる
3. 学会等名 第4回ウィリアム・モリス研究会、意匠学会デザイン史分科会 ( 於慶應義塾大学日吉キャンパス、横浜市港北区、2019年12月21日 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 「清らかな空気、水、大地」と「悪疫の雲」 人新世の黙示録
3. 学会等名 ラスキン生誕200年記念シンポジウム「ジョン・ラスキンと気候変動」ラスキン文庫、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画 ( 日本女子大学目白キャンパス、東京都文京区、2019年11月2日 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KAWABATA Yasuo
2. 発表標題 John Ruskin and Kenji Miyazawa: An Idea of Nomin Geijutsu (Peasant Art) and Its European Legacy
3. 学会等名 International Conference "An Great Community: John Ruskin's Europe" (Ca' Foscari Venezia, Itala, 9 Oct. 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 詩・小芸術・コミットメント モリスの後期韻文作品をめぐって
3. 学会等名 日本英文学会第91回大会（於安田女子大学、広島市安佐南区、2019年5月25日）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 ウィリアム・モリスと小野二郎
3. 学会等名 世田谷美術館（於東京都世田谷区砧公園、2019年5月18日）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OCHI Hiromi
2. 発表標題 Diversifying Appalachia: Reimagining Coal Mining Hillbilly Community
3. 学会等名 An International Symposia: The Cultures of Coal - 1st Session: Diversifying the Cultures of Coal (Nogata Saijikan, Nogata City, Fukuoka, Japan, 23 Sept. 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 KONO Shintaro
2. 発表標題 COVID-19, the Olympics, and Flow
3. 学会等名 The Centenary Symposia: Raymond Williams in an Age of Globalisation - Symposium 3: Raymond Williams in Japan (Online, 22 Oct. 2021) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakai Asako
2. 発表標題 The Convenience Store: Urban Workstyle Today and Tomorrow
3. 学会等名 Raymond Williams Society First Annual Conference "Cultural Production and the Redundancy of Work: Precarity, Automation, Critique" (Manchester, 26 April 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAKAI Asako
2. 発表標題 Timeless Workers of the World: Modernist Temporal Imagination and the Wages for Housework Campaign
3. 学会等名 The Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia Network (MSIA) "Modernism and Multiple Temporalities," Aoyama Gakuin University, Tokyo (14 September 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井 亜佐子
2. 発表標題 近代文学の終わり？
3. 学会等名 国際シンポジウム「近代文学の終り」（於東京大学、2019年11月30日）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 Between Freud and Klein: Joan Riviere and Her Textual Masquerade
3. 学会等名 Workshop on the End of Modern Literature (於東京大学駒場キャンパス、東京都目黒区、2019年11月30日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KONO Shintaro
2. 発表標題 Culture, Nature, and Livelihood: Raymond Williams with Hayao Miyazaki
3. 学会等名 Raymond Williams Society First Annual Conference "Cultural Production and the Redundancy of Work: Precarity, Automation, Critique" (Manchester, UK, 26 April 2019)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 Affect and Cultural Production: Border Country and Socialist Community
3. 学会等名 Raymond Williams Society First Annual Conference "Cultural Production and the Redundancy of Work: Precarity, Automation, and Critique" (Friends Meeting House, Manchester, UK, 27 April 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 The Ocean Libidinized: Yukio Mishima and the Cold War
3. 学会等名 International Conference on the Aesthetic Mechanisms of Ocean Representations in British, American, and Asian Contexts (於成蹊大学、東京都武蔵野市吉祥寺、2019年7月13日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 A Modernist Critique of Modernity: Materiality of the Invisible in British and Japanese Modern Art
3. 学会等名 Modernism and Multiple Temporalities: The Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia (於青山学院大学、東京都渋谷区、2019年9月14日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 Something Traumatic beyond the Psychological: Karatani and de Man Reconsidered
3. 学会等名 Workshop on the End of Modern Literature (於東京大学駒場キャンパス、東京都目黒区、2019年11月30日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤 不比人
2. 発表標題 反近代としての近代主義 オスカー・ワイルドにおける表象をめぐる問題系
3. 学会等名 オスカー・ワイルド協会第44回全国大会 (於日本女子大学目白キャンパス、東京都文京区、2019年12月14日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野 真太郎
2. 発表標題 歩くこと、階級、自由
3. 学会等名 オーウェル『一九八四年』とディストピアのリアル 刊行70周年記念シンポジウム (2019年3月5日、於日本女子大学目白キャンパス、東京都文京区目白台)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西 亮太
2. 発表標題 炭鉱の混淆性とその意義 森崎和江を読みなおす
3. 学会等名 第二回日本学研究フォーラム（2019年3月29日、於華南師範大学外国言語文化学院、中国広東省広州市石碑）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 「芸術とその作り手たち」 全国芸術・産業応用芸術振興協会第一回大会（1888年）でのモリスの報告をめぐる
3. 学会等名 第3回ウィリアム・モリス研究会（意匠学会デザイン史分科会、2018年12月15日、於日本女子大学目白キャンパス、東京都文京区）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 Face and Surface Disfigured: Paul de Man, Wordsworth, and Freud
3. 学会等名 Behind the Masks: Representations of the Face in Japanese and Western European Literature and Theatre from the Early Modern Period to the Present (14 Dec. 2021, University of Edinburgh, Edinburgh, UK) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 レッサー・アーツ ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
3. 学会等名 川村英文学会 第25回大会（2018年9月15日、於川村学園女子大学目白キャンパス、東京都豊島区）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ENDO Fuhito
2. 発表標題 Empathetic or Counter/Transferential Narrative: Pre/Post-Freudian Language in Joseph Conrad
3. 学会等名 Modernism and Empathy: An International and Interdisciplinary Conference (2018年6月15日, The Education University of Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端 康雄
2. 発表標題 「擬い物」に抗って ウィリアム・モリス晩年の講演 "Makeshift"(1894)についての一考察
3. 学会等名 第2回ウィリアム・モリス研究会 (意匠学会デザイン史分科会)、2017年12月16日、於同志社女子大学今出川キャンパス (京都府京都市上京区)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 OCHI Hiromi
2. 発表標題 Constructing an Exceptional Region: Recurrent Emergence of Appalachia
3. 学会等名 ASA 2017, Chicago, 2017年11月12日 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAWABATA Yasuo and HIROSE Emi
2. 発表標題 "Deadly the Harvest of Two Atom Bombs": An Anti-A-Bomb Song Travelling from Japan to Britain
3. 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日 (発表2日), Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 KONO Shintaro
2 . 発表標題 "Network of Guilt by Association": Loyalties and Cold War Liberalism
3 . 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日 ( 発表2日 ) , Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 OCHI Hiromi
2 . 発表標題 Harlan Miners Speak: The Way Their Voices Were Heard
3 . 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日 ( 発表2日 ) , Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 NAKAI Asako
2 . 発表標題 Poetics of Women's Everyday Life: Work, Objects/Things, Language
3 . 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日 ( 発表1日 ) , Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 ENDO Fuhito
2 . 発表標題 Affective Socialism: Border Country Revisited
3 . 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日 ( 発表1日 ) , Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 NISHI Ryota
2. 発表標題 Mining Alternative Imaginations: Women's Voices, Colonial Experience and Imaginations of the Past in the Postwar Labour Movements of Japan
3. 学会等名 Selective Tradition in the Pacific, 2017年9月1~2日(発表1日), Kelburn Campus, Victoria University of Wellington, Kelburn, Wellington, New Zealand(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤 不比人
2. 発表標題 情動とモダニティ、あるいはアウラをめぐる唯物論
3. 学会等名 徹底討論:「情動・触覚・モダニティ」をめぐる、2017年7月29日、第116回日本ヴァージニア・ウルフ協会例会、2017年7月29日、於青山学院大学(東京都渋谷区)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤 不比人
2. 発表標題 D・H・ロレンスの反心理学 あるいはその情動論的可能性の再読
3. 学会等名 シンポジウム、情動、共感、D・H・ロレンスとその周辺、第48回日本ロレンス協会全国大会、2017年7月23日、東洋大学(東京都文京区)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 川端 康雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 オーウェル『一九八四年』 デイストピアを生き抜くために	

1. 著者名 【編集責任】秦 邦生、【執筆者】マーガレット・アトウッド、西 あゆみ、星野 真志、中村 麻美、ジャン＝フランソワ・リオータル、郷原 佳以、小川 公代、川端 康雄、渡辺 愛子、小田島 創志、高村 峰生、加藤 めぐみ、伊達 聖伸、吉田 恭子、高橋 和久	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 314
3. 書名 ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む ディストピアからポスト・トゥルースまで	

1. 著者名 【編者】小泉 義之、立木 康介 小泉 義之、【執筆者】立木 康介、中井 亜佐子、西迫 大祐、隠岐 さや香、坂本 尚志、佐藤 淳二、田中 祐理子、松本 潤一郎、藤田 公二郎、森本 淳生、柴田 秀樹、上田 和彦、武田 宙也、上尾 真道、棚瀬 宏平、久 保田 泰考、王寺 賢太、相澤 伸依、佐藤 嘉幸、ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 590
3. 書名 フーコー研究	

1. 著者名 ジョージ・マカーリ、遠藤 不比人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 784
3. 書名 心の革命 精神分析の創造	

1. 著者名 中井 亜佐子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 308
3. 書名 わたしたち の到来 英語圏モダニズムにおける歴史叙述とマニフェスト	



1. 著者名 川端 康雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 286
3. 書名 ジョージ・オーウェル 「人間らしさ」への讃歌	

1. 著者名 河野 真太郎、リース・デイヴィス、グウィン・トマス、マーシアッド・エヴァンズ、ロン・ベリー、レイ チェル・トレザイス、川端 康雄、山田 雄三、中井 亜佐子、西 亮太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 暗い世界 ウェールズ短編集	

1. 著者名 【編者】下河辺 美知子、【著者】下河辺 美知子、田浦 紘一郎、石原 剛、佐久間 みかよ、大串 尚代、 越智 博美、田ノ口 正悟、舌津 智之、貞廣 真紀、白川 恵子、巽 孝之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 マニフェスト・デスティニーの時空間 環大陸的視座から見るアメリカの変容	

1. 著者名 【編者】川本 玲子、【著者】越智 博美、河野 真太郎、川本 玲子、小岩 信治、小泉 順也、早坂 静、南 裕子、坂 なつこ、柏崎 順子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 ジェンダーと身体 解放への道のり	

1. 著者名 トニー・ジャット、ジェニファー・ホーマンズ、河野 真太郎、西 亮太、星野 真志、田尻 歩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 584
3. 書名 真実が揺らく時 ベルリンの壁崩壊から9.11まで	

1. 著者名 【責任編集】松本 朗、【共編者】岩田 美喜、木下 誠、秦 邦生、【執筆者】板倉 徹一郎、猪熊 恵子、大久保 謙、小川 公代、唐澤 一友、川崎 明子、柴山 智成、小山 太一、高桑 晴子、武田 将明、田中 裕介、中井 亜佐子、長島 佐恵子、中山 徹、松井 優子、溝口 昭子、武藤 浩史、吉田 直希	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 408
3. 書名 イギリス文学と映画	

1. 著者名 【責任編集】杉野 健太郎、【共編者】諏訪部 浩一、山口 和彦、大地 真介、【執筆者】川本 徹、藤吉 清次郎、貞廣 真紀、辻 和彦、堤 千佳子、新井 景子、小林 久美子、杉野 健太郎、相原 直美、中垣 恒太郎、山野 敬士、諏訪部 浩一、大地 真介、越智 博美、宮本 敬子、相原 優子、山口 和彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 360
3. 書名 アメリカ文学と映画	

1. 著者名 【編】成蹊大学文学部学会、【責任編集】日比野啓、【執筆者】権田 建二、下河辺 美知子、日比野 啓、庄司 宏子、正岡 和恵、バーナビー・ラルフ、堀 祐子、遠藤 不比人、小林 英里、田辺 春美、平山 真奈美、森住 史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 370
3. 書名 Facets of English 英語英米文学研究の現在	

〔産業財産権〕

〔その他〕

The Society for Raymond Studies in Japan  
<http://raymondwilliams.jp/wordpress/>  
 オーウェル『一九八四年』とディストピアのリアル 刊行70周年記念シンポジウム(3月5日開催)  
[https://www.jwu.ac.jp/unv/humanities\\_news/2018/20190305.html](https://www.jwu.ac.jp/unv/humanities_news/2018/20190305.html)  
 Selective Tradition in the Pacific  
<https://selectivetradition.wordpress.com/programme/>  
 Post-industrial Culture & Society in Wales, etc.  
<https://aftercoaljp.wordpress.com/>  
 The Society for Raymond Williams Studies in Japan  
<http://raymondwilliams.jp/wordpress/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中井 亜佐子  (NAKAI Asako)  (10246001)	一橋大学・大学院言語社会研究科・教授    (12613)	
研究分担者	遠藤 不比人  (ENDO Fuhito)  (30248992)	成蹊大学・文学部・教授    (32629)	
研究分担者	河野 真太郎  (KONO Shintaro)  (30411101)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授    (32634)	
研究分担者	大貫 隆史  (ONUKI Takashi)  (40404800)	東北大学・文学研究科・准教授    (11301)	
研究分担者	西 亮太  (NISHI Ryota)  (60733235)	中央大学・法学部・准教授    (32641)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	越智 博美  (OCHI Hiromi)  (90251727)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授    (32634)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Selective Tradition in the Pacific, 1-2 September 2017, at Kelburn campus, Victoria University of Wellington (Wellington, New Zealand)	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 After Coal: Symposia on Post-industrial Culture and Society in Wales, Appalachia and Japan, 18 & 23 February 2018 (1st session at Osaka University & 2nd session at Japan Women's University, Tokyo)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 An International Symposia: The Cultures of Coal - 1st Session: Diversifying the Cultures of Coal, 23 Sept. 2019, Nogata Saijikan, Nogata City, Fukuoka Pref.	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 An International Symposia: The Cultures of Coal - 2nd Session: Disabilities and the Cultures of Coal, 28 Sept. 2019, at Kanda Campus, Senshu University, Tokyo	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
New Zealand	Victoria University of Wellington			
United Kingdom	Swansea University			
USA	Appalachian State University			